

## H25地域協働研究（地域提案型・前期）

### RF-12「みちのく民俗村のITを活用したユニバーサルデザインの検討」

課題提案者：特定非営利活動法人きたかみ観光ネクスト

研究代表者：ソフトウェア情報学部 教授阿部昭博

研究メンバー：狩野徹（社会福祉学部）、佐藤一郎（NPO法人きたかみ観光ネクスト）、高橋雄一郎（北上市）

#### <要 旨>

北上市のみちのく民俗村は、展勝地公園の丘陵地に古民家などの歴史的建造物を保存・展示する東北有数の野外博物館である。今後、教育施設のみならず観光施設としての活用を積極的に推進するうえで、丘陵地の立地特性に対するユニバーサルデザイン対応が急務となっているが、ハード面での整備には限界がある。本研究では、現状の課題分析と先行事例調査等を踏まえて、ITを活用したユニバーサルデザイン対応の方向性について提言した。

#### 1 研究の概要（背景・目的等）

桜の景勝地として有名な北上市の展勝地公園は、青森県の弘前や秋田県の角館とともに東北3大桜の名所に数えられているが、「北上展勝地桜まつり」の観光客はピーク時の50万人から、近頃は30万人程度に落ち込んでいる。桜以外にも展勝地には、美術館や博物館など歴史・文化施設が集中しているものの、展勝地公園全体の施設が連携した活用が十分に図られていない。なかでも、みちのく民俗村は、重要文化財に指定されている古い民家などを移築した施設であり、茅葺屋根の補修などの維持管理費は、市の財政に大きな負担となっており、集客増による入園料収入も期待されている。

平成26年度より、みちのく民俗村の管理は、北上市教育委員会から商業観光課に移管されることとなった。同施設は、展勝地公園の山間約7haの敷地に古民家などの歴史的建造物29棟、北上地方に生息する植物39種を有する総合野外博物館の特性上、急な坂道や段差など身障者や高齢者にとって利用し難い場所になっており、ユニバーサルデザイン（以下、UD）対応の検討が必要となっている。また、案内看板は既に古くなり、訪れた人への案内誘導など情報の提供が十分に行われていない。これら、丘陵地に立地する文化財を保全・活用する野外博物館特有の課題を克服し、観光施設にふさわしい環境を整備するうえで、ハード面での対応には限界があり、IT活用などソフト面からの施策が不可欠である。

以上の通り、みちのく民俗村については、教育的な面で維持管理している施設から、観光的な視点を取り入れた施設としての活用を進める上での課題検討が急務となっている。新たな観光客の誘致による集客増は、施設の維持管理費の圧縮効果や、地域への経済効果に繋がるものと期待される。本研究の目的は、みちのく民俗村の観光資源としての価値を高めるために、ITを活用して多様な観光客の受け入れに配慮するUD対応の在り方を提言することにある。

#### 2 研究の内容（方法・経過等）

##### (1)現状の課題分析

観光情報は、観光行動に沿って必要となる情報を事前・現地・事後フェーズに分けて整理することができる。現

状の課題把握においては、このフェーズに沿ってUD対応状況の調査を行うこととした。事前情報と事後情報については、みちのく民俗村ホームページの掲載情報を対象に分析した。施設の空間特性と現地情報については、参画メンバー個々に施設の下見や資料調査、観光地UD実践ビデオ教材（狩野教授監修）視聴等の十分な予備調査の後にフィールドワークショップを開催し、当該施設のUD対応における課題の発見と共有を図った。

##### (2)先行事例調査

調査対象は、全国文化財集落施設協議会加盟12施設および、岩手県内の類似施設2施設を合わせた、計14施設である。調査方法は、ホームページ内容による一次調査とヒアリングによる二次調査の二段階とし、14施設のホームページ掲載内容の分析結果から、特徴ある取り組みの見られた6施設に対する調査を実施した。

##### (3)IT活用に関する概念設計

(1)(2)の結果や北上市の観光振興施策、関連技術動向も踏まえて、みちのく民俗村におけるIT活用の在り方を調査研究報告書として取り纏めた。

#### 3 これまで得られた研究の成果

UD対応のための段階的なIT活用について提言した。

##### (1)事前情報の充実（ステップ1）

観光施設としての活用を推進するにあたり真っ先に改善が必要な点として、ホームページ掲載情報の充実が挙げられる。施設の基本情報（施設概要・営業時間・料金・アクセス情報）、野外博物館特有の情報（移設・復元した建物の情報や園内マップ、時間やテーマに応じたコース設定、イベント・体験講座の情報、ボランティアガイドの情報）のほか、SNS（Twitter、Facebook等）を使った最新情報の配信も欠かせない。

野外博物館の場合は、表1に示したユーザ特性グループごとのUD対応情報の掲載は特に重要と考える。丘陵地に立地し、重要文化財を保存する野外博物館においては、UD化にはおのずと限界がある。案内板、トイレ、アプローチといった必要最小限のインフラ改修は必須であろうが、「車椅子で通れる/通れない場所」「UD対応設

表1 ホームページに掲載すべきUD対応情報

ユーザ特性	掲載情報
視覚障害者、聴覚障害者	・盲導犬、聴導犬の入園可否 ・音声ガイドやガイドブックの有無
車椅子利用者	・ルート情報（車椅子で通れない通れない場所等） ・車椅子用トイレの情報 ・車椅子用駐車場の情報
外国人	・外国語ページ（英語、他言語） ・外国語パンフレット等のダウンロード ・英語ガイドの有無
子供連れ	・ベビーシート、授乳室の有無 ・ベビーカーの貸出 ・子供向けのコンテンツ
高齢者	・車椅子の貸出 ・ホームページの文字サイズ変更

備の所在と内容」といった現地でのUD対応状況を的確にホームページで発信することで、観光行動に制約のある来訪者にとっても事前の計画を立てやすくなり、安心感にも繋がる。これら、掲載情報の充実、ホームページ自体のアクセシビリティ確保（見やすさ、音声読み上げ対応等）が前提となることは言うまでもない。

## (2) 現地での見学支援（ステップ2）

スマートフォンやタブレット端末を用いて現地の見学を支援することで、子供や外国人でも建造物の歴史的背景や見所等を理解しやすくなる。音声による提供は、高齢者や視覚障害者への配慮にも繋がる（図1）。これら、UDに配慮したスマートフォン活用については、筆者らが取り組んだ「平泉ポータブル観光ガイド」における情報アクセシビリティのコンセプトが参考になるであろう<sup>[1]</sup>。また、AR機能やCG機能を駆使して、見学自体のエンタテインメント性を高める仕掛けも考えられる。今後は、メガネ型のウェアラブル情報端末の普及が期待され、UDに配慮した新しい見学体験サービスの創出も可能となる。



図1 スマートフォンによる音声ガイドの試作例

## (3) 展勝地エリアにおける観光周遊の支援（ステップ3）

みちのく民俗村周辺には、展勝地桜並木や1000年以上前の寺院跡である国見山廃寺跡など、数多くの観光資源を有している。そこで、それらを一体的な観光資源と捉えてフィールドミュージアムを形成し、その周遊をITで支援することが考えられる（図2）。フィールドミュージアムとは、地域全体を「屋根のない博物館」に見立てて歴史・文化・

自然を見つめ直し、それらを博物館の展示物として捉える取り組みである。フィールドミュージアムを構成する要素として、エリア（あるいはテリトリー）・コア・サテライトが存在する。エリアは、歴史や文化・自然などから見て一定のまとまりをもった地域、コアは拠点施設、サテライトは拠点施設周辺のスポット群である。展勝地フィールドミュージアムにおいては、エリアは展勝地・国見山周辺、コアは北上市立博物館、サテライトはみちのく民俗村や展勝地桜並木、国見山廃寺跡などを想定する。

特定の地域全体をひとつの野外博物館としてとらえるため、展示見学空間は、屋外でかつ広範囲にわたる。その多くは既存ミュージアム等の施設を拠点として、複数の見学場所を周遊する形態をとる。そのため、見学場所の解説だけでなく、見学場所を繋ぐための移動経路や交通に関するUD情報、さらにはフィールドミュージアム全体を俯瞰するための総合的な情報を多様な来訪者に配慮しつつ提供する必要がある。

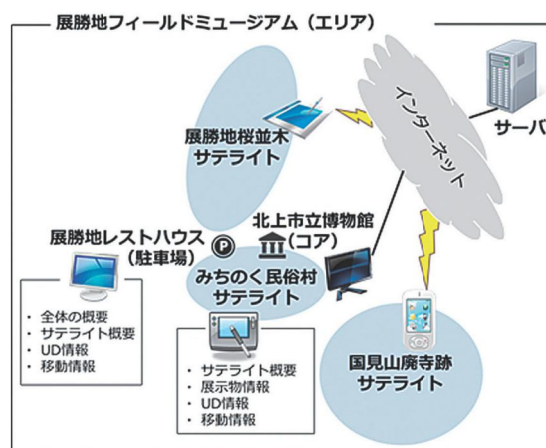


図2 IT支援によるフィールドミュージアム実現イメージ

## 4 今後の具体的な展開

北上市では、平成26年度から平成32年度までの7年間で計画期間とする北上市観光ビジョンを策定し、平成26年3月に公表した<sup>[2]</sup>。これを踏まえて、平成26度には、みちのく民俗村の施設整備計画の策定が予定されている。本研究での提言内容は、そのなかで活用されることが見込まれる。今後は、ウェアラブル情報端末の活用可能性についても検討してゆきたい。

## 5 その他（参考文献・謝辞等）

本研究の実施にあたり、協力をいただいた(株)ノーザンシステムサービスの工藤彰氏に感謝する。

- [1] 阿部昭博：平泉観光の新たな価値創造と情報の利活用、情報処理、Vol.53, No.11, pp.1178-1183 (2012)。
- [2] 北上市観光ビジョン, <http://www.city.kitakami.iwate.jp/>
- [3] 工藤彰, 阿部昭博, 狩野徹：野外博物館におけるITを用いたユニバーサルデザイン対応の在り方、情報処理学会研究報告, Vol.2014-CH-102, No.3 (2014)